

資料 1-11 被災建築物応急危険度判定調査表

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造建築物等の応急危険度判定調査表

集計欄は数字で記入

RC

整理番号 _____ 調査日時 5月 31日 午前・(午後) / 時 調査回数 / 回目
 調査者氏名(都道府県/No) 坂下 浩一 () / ()
 神子島 意 () / ()

整理番号
 V

建築物概要

- 1 建築物名称 東映ムービル 1.1 建築物番号 _____
 2 建築物所在地 本町一丁目 2.1 住宅地図整理番号 _____
 3 建築物用途 1.戸建て専用住宅 2.長屋住宅 3.共同住宅 4.併用住宅 ⑤店舗 6.事務所
 7.旅館・ホテル 8.庁舎等公共施設 9.病院・診療所 10.保育所 11.工場
 12.倉庫 13.学校 14.体育館 15.劇場、遊戯場等 16.その他 ()
 4 構造種別 ①鉄筋コンクリート造 2.プレキャストコンクリート造 3.ブロック造
 4.鉄骨鉄筋コンクリート造 5.混合構造 () と ()
 5 階数 地上 6階 地下 0階
 6 建築物規模 1階寸法 約 29 m × 8 m

建築物番号
 V

住宅地図整理番号

3 V
 4 5
 地上 6階
 地下 0階
 ア 29 m
 イ 8 m

調査 調査方法：(1.外観調査のみ実施) (2.内観調査も併せて実施)

1 一見して危険と判定される。(該当する場合は○を付け危険と判定し調査を終了し総合判定へ)

1.建築物全体又は一部の崩壊・落階	2.基礎の著しい破壊、上部構造との著しいずれ
3.建築物全体又は一部の著しい傾斜	4.その他 ()

調査方法
 2

1 V

2 隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度

		Aランク	Bランク	Cランク
判定(1)	①損傷度Ⅲ以上の損傷部材の有無	①.無し	2.あり	
判定	②隣接建築物・周辺地盤の破壊による危険	①.危険無し	2.不明確	3.危険あり
	③地盤破壊による建築物全体の沈下	①. 0.2m以下	2. 0.2m～1.0m	3. 1.0m超
	④不同沈下による建築物全体の傾斜	①. 1/60以下	2. 1/60～1/30	3. 1/30超
	柱の被害【下記⑤⑥の調査階(被害最大の階) _____ 階】(壁構造の場合は柱を壁の長さを読みかえる)			
判定(2)	⑤損傷度Ⅴの柱本数/調査柱本数 損傷度Ⅴの柱総数 本 調査柱 本 (調査率 %)	①. 1%以下	2. 1%～10%	3. 10%超
	⑥損傷度Ⅳの柱本数/調査柱本数 損傷度Ⅳの柱総数 本 調査柱 本 (調査率 %)	①. 10%以下	2. 10%～20%	3. 20%超
危険度の判定	判定(1)と判定(2)のうち大きな方の危険度で判定する	①.調査済み(要内観調査)	2.要注意	3.危険

判定(1)

① 1

② 1

③ 1

④ 1

柱の被害最大の階

V

⑤ 1

⑥ 1

判定(2)

1

判定

1

3 落下危険物・転倒危険物に関する危険度

		Aランク	Bランク	Cランク
判定(1)	①窓枠・窓ガラス	①.ほとんど無被害	2.歪み、ひび割れ	3.落下の危険有り
判定(2)	②外装材(モルタル・タイル・石貼り等)	1.ほとんど無被害	2.部分的なひび割れ、隙間	③.顕著なひび割れ、剝離
判定(3)	③外装材(ALC板・PC板・金属・ブロック等)	1.目地の亀裂程度	2.板に隙間が見られる	3.顕著な目地ずれ、板破壊
判定(4)	④看板・機器類	1.傾斜無し	2.わずかな傾斜	③.落下の危険有り
判定(5)	⑤屋外階段	1.傾斜無し	2.わずかな傾斜	③.明瞭な傾斜
判定(6)	⑥その他(アーケード)	1.安全	2.要注意	③.危険
危険度の判定	判定(1)と判定(2)のうち大きな方の危険度で判定する	1.調査済み 全部Aランクの場合	2.要注意 Bランクが1以上ある場合	③.危険 Cランクが1以上ある場合

① 1

② 3

③ V

④ 3

⑤ 3

⑥ 3

判定

3

総合判定(調査の1で危険と判定された場合は危険、それ以外は調査の2と3の大きい方の危険度で判定する。)

1. 調査済(緑) 2. 要注意(黄) ③. 危険(赤)

総合判定

3

コメント(構造躯体等が危険か、落下物等が危険かなどを記入する。)
 ・外壁モルタル剥落のおそれ。・外部配管及びアーケード下部配管落下のおそれ。
 ・屋外階段鉄骨部落下のおそれ。アーケード部小屋ブレース切断のため危険。

コメントは判定ステッカーの注記と同じとする。